

令和2年度第1回砺波市行政改革市民会議会議録（要旨）

1 開催日 令和2年7月6日（月） 午後2時～3時

2 場所 砺波市役所 本館3階 大ホール

3 出席者 <市民会議委員 13名のうち11名>

井上委員、岩原委員、上田委員、老委員、久保田委員、島田委員、嶋田委員、
武田委員、中村委員、藤井委員、本江委員
（飯田委員及び川邊委員は欠席）

<市当局・事務局 17名>

夏野市長、齊藤副市長、山本教育長、畑企画総務部長、黒河福祉市民部長、
島田商工農林部長、老松建設水道部長、堀池砺波総合病院事務局長、
構教育委員会事務局長、川島庄川支所長、高畑企画調整課長、森田財政課長、
坪田総務課長、境総務課行政係長、田村総務課人事係長、
久保総務課行政係主査、子吉総務課行政係主任

4 説明及び協議内容

- (1) 行政改革推進体制及びスケジュールについて説明を行った。
- (2) 行政改革報告書、行政改革推進計画及び提案型事業評価対象事業の進捗状況について説明を行った。
- (3) 令和2年度行政改革庁内会議専門部会の検討事項 について説明を行った。
- (4) 次期砺波市行政改革大綱の策定について説明を行った。
- (5) (1)～(4)を踏まえて、意見交換を行った。

5 意見・協議の概要

(1) 行政改革報告書に関する意見・質問

ア 女性育成防災士育成支援事業について

【委員】

かねてから、避難所の設営・運営は男性中心になっていたが、女性目線で防災のことを考えるということで、とてもいい取り組みだと思っている。

どんどん女性防災士を増やしていき、女性や子どもも安心して避難できるような環境にしていきたい。

【会長】

コロナウイルスの感染拡大を心配しながら防災・避難について考えるということになると、男性だけではなくて、女性目線で考えるということが大事になってくる

と思う。

今後も女性防災士のニーズ・重要性が高まると思うので、ぜひ継続して取り組んでもらえればと思う。

【委員】

私は、防災士にはなり1年間勉強させていただき、知識が得られた。万一何かがあったときに、砺波市の皆さんのために少しはお役に立てるのではないかなと、良かったと思う。

【会長】

今後は、防災士になった方に対する継続的なスキルアップのための教育や啓発という観点でも支援していくということが大事であると思う。そういうところにも取り組んでいただければと思う。

イ 地方税共通納税システムの導入について

【委員】

機械的にやれる部分は機械的にやるということで、法人側も行政側も人員をあまりかけずにやれるシステムを構築されたことは良いことだと思う。

【会長】

徴税のコストをしっかりと押さえていくことが大事。納税者側からすると、納税のコストをどうやって少なくしていくかということが大事。徴税コスト・納税コスト両方を、行革という視点で、さらに良いものにしていただければと思う。

ウ 高齢者運転免許自主返納支援事業について

【委員】

免許を返納したという方のお話を聞くと、出かける機会が減ってしまって健康面で良くないというお声があった。

【会長】

免許を返納することで出かける機会が減り、その結果健康面で悪い影響が出るということは良くないことなので、今のうちに、こういった共通支援券を幅広く使えるようにしていただきたい。高齢者の方々の活動をこのような形で補償して行きながら、免許返納をお願いしていく、というかたちで進めるべきかと思う。

エ 庄川水記念公園再整備検討委員会の設置について

【委員】

前回の行革市民会議では、庄川美術館と水資料館を、雨漏りがする等のため、な

くすという方向に話が進んでおり、驚いた。

ただ、実際に昨日行ってみると結構な方がいらっしゃるし、庄川水記念公園は、山や川などの自然があって景観が良い。

庄川には、温泉や庄川木工、鮎、金屋ゆず等の特産品もあるが、本来の目的は庄川の治水と流送の歴史をつなぐものである。また、美術館の中にも、庄川町出身の松村外次郎さんや齋藤清策さん、藤森兼明さん、辻志郎さんの作品がたくさん展示されている。

それが、もし、砺波市美術館と合併することになったら、その作品はどうするんだろう、と心配になる。また流送の歴史を描いたパネルや、山の模型なども、どこへ行くのかと心配している。

予算の削減はとても大切なことだが、展示物や美術品についてご配慮願いたい。

【会 長】

今ほど委員がおっしゃったように、伝えていくべき機能や役割と、施設の老朽化との兼ね合いもあるかと思う。

まずはワーキンググループ、次は令和3年度の再生検討委員会があるので、そこで実質的なしっかりとした議論がされることが大事だと思う。

【 市 】

市のほうでは、公共施設が同じようなものが2つあったり、老朽化していたり、使われていなかったりする施設については、これから少子高齢化の中で、現在の財源を維持していくのは難しい。

その中で、いくつかの施設については再編しようということで、昨年度、いくつかの地区の皆さんや関係団体の皆さんのもとへ、説明しに伺った。

庄川の方でも 水資料館と庄川美術館については、建築してから30年以上経つので、老朽化が激しいということと、水資料館については年々見学者が減少しているため今回解体させていただきたい、という提案を地元の皆さんにさせていただいた。

地元の皆さんからは、残してほしいという意見がいくつかあったが、市としては、これからの時代、残すのは難しい、ということで皆さんには一定のご理解をいただいているという認識である。

ただ、美術館にある作品や水資料館の中の資料には、非常に貴重なものがあるし、これから後世に伝えていく必要のあるものも含まれているので、資料館の中のものについては、現在の水記念公園のほうの施設を利用し、もっと広く皆さんにみてもらう、という形で改修していきたいと考えており、それについては皆さんの意見をいただいているところである。

また、美術館についても、たくさん作品があるので、それをもっと多くの人にみていただくということで、例えば、現在屋内で展示している作品を屋外で展示

したり、砺波市美術館と連携したりして、作品を多くの人に見てもらえる機会を作りたい、というような提案をして、皆様のご意見をいただきながら方向を定めたいと思っている。

【会 長】

施設の統廃合は大事なトピックであるし、それらの施設が担ってきた役割を伝えていくということも大事だと思うので、行政改革とは、そのバランスをどう取っていくかということに他ならないと思う。

【市 長】

庄川美術館と水資料館については、廃止するとなると「美術館は大事だった」とか「楽しみだった」などという声上がるが、これまでの間、例えば合併後15年間はどうか。

そこで今後は、機能的に整理をしながら後世に伝えていきたいということで、行革とは別の委員会ではあるが、そちらのほうで検討を進めていってもらっている。

オ AI・5G等次世代ICTの活用についての庁内研究会の設置について

【委 員】

AI・5G活用についての研究会を設置されたとのことだが、この研究会の詳細について教えていただきたい。

【市 長】

まず、講師に中央の5Gの研究委員である信州大学の先生に着任いただき、今後研究会を設置しようと思っていたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、講義をしにお越しいただくことができなくなってしまい、研究会の開催に至っていない。

現在のところ、8月初旬に改めて研究会を設置して、研究をしていく予定で、担当の職員がリモートで先生の講義を受けており、少しずつ知識をつけながら、先生と議論を深めていきたいと考えている。

【委 員】

地域課題であるので、当然中央の方をお呼びするのも大事かと考えるが、砺波市の中でもその方面で専門の方や詳しい方がおられるし、砺波市独自の地域課題を分かっている方や一般の方、企業の方も、この研究会を進めていく中で参加できるようにしていただければと思う。

【会 長】

ICTの活用というのは、行政だけが詳しくればよいというものではなく、地域の課題の解決や行政サービスの効率化ということも含めて、是非、行政と民間と公

民一体で取り組んでいただきたい。

【市】

砺波地域の社会的なもので、活用できるものは何かないかということで、庁内会議に関わらず、砺波地域情報化研究会というものが設立されており、通信事業者・放送事業者・官公庁・商工団体・事業者で構成されており、講師は総務省の方となっている。

砺波地域ではローカル5Gが使用できる環境もあるので、委員がおっしゃったような、砺波らしい、といったものを今後研究していく。

【市長】

5G、AIの分野についていえば、どちらかといえば遅れているのは行政のほうであり、これからしっかり取り組んでいこうというもの。段階でいうと、スキーをはいたところであり、これから滑り始めて、ゲレンデの状態をみながら進めていきたい。

(2) 行政改革大綱における改定箇所に関する意見・質問

ア コロナ禍における取組みについて

【会長】

行政改革大綱の改訂箇所についてご説明いただいた。

次回の市民会議では、大綱の案のようなものを提示されるとのことなので、今回の会議では、大きな方向性という観点でご意見をいただきたい。

【委員】

このコロナ禍で世の中のほとんどが変わってしまった。経済活動も産業的にも多くががらりと代わってしまった今、ピンチでも有り、チャンスでもあるという事をしっかりと認識しなければならないと思っている。

【市長】

大きな視点として、ウィズコロナの視点が抜けているので、ぜひ委員のご意見をいただきたいと考えている。

今般、このコロナ禍を機に、当市では行政手続きでいくつかの考え方を決めた。

その中のひとつは、「早くやろう」。次に、「手続きを簡素化する」。例えば、他の手続きで受け付けられた申請書のコピーでもって、別の手続きも受け付けるというような考えである。

コロナ禍を機に、行政がスリム化できる部分をしっかりとスリム化すれば、しっかりと住民サービスに応えられるという、ある意味強制的な実験だった。

これで今回問題がなければ、もっと簡素化できるものはあるのではないかと、しっ

かりと取り組んでまいりたい。

委員のご発言にもあったように、コロナ禍は、ピンチばかりではなく、チャンスもある。

やらなくてもいいのではないかと思われていたが、とりあえずやってきたことについて、コロナ禍を機にやめてみたが、どうということもなかったという話もある。

逆にもっといい知恵があるのではないか、ということもあることから、今後も引き続き見直しに努めてまいりたい。

【委員】

私は、商工会議所青年部をやらせていただいているが、全国各地の方とZOOMなどで、離れてインターネット上で意見交換をしている。大手企業は、都会に本社を構える必要がなくなってきたという話は多く聞く。これは、テレワークの実施や会議を実際対面でやらなくてもいいということが、このウィズ・コロナで分かった、ということで、私はこれがピンチをチャンスに変える機会だと思っている。

今まで見向きもしてくれなかった大手企業が、例えば地方や、交通の便が良くくて自然が豊かなところに本社を移転しようというような動きを少しずつ見せているという風に思われるし、そのような話もある。

このコロナ渦をチャンスととらえて、企業誘致も大綱に入れていただけないかなと、あるいは企業誘致をする研究会やチームを発足させるなど。大手企業が未来の財産となっていくと思われるが、そのあたりはいかがか。

【市】

現在、市では、市内の工場団地の造成について本格的に調査をし、実施の方向で動いている。

ある程度の大きさの工場団地を造って誘致するという方法もできるが、一方で、サテライトオフィスという考えもある。例えば、企業活動どこにあってもできると、働きやすい、落ち着いた環境の中で仕事をするというやり方もあると思われる。

また、確実に市に呼び込んでいこうことは計画的に行っている。

大綱に入れるかどうかについては、今後庁内会議等で検討させていただきたい。

【委員】

当然工場もそうであるが、本社にも来てもらえるチャンスが今ある状況。

他の市町村も同じ条件だと思うので、スピード感を持って、この大綱に載せるくらいに力を入れていただきたい。

【会長】

行政改革の枠の中でこういった取組みができるかということもあるし、別途総合計画や個別の計画でしっかり検討いただくべきところかとも思う。

【委員】

このコロナ禍を機に、東京の一極集中を見直すことが大事という記事が新聞に出ている。そこで、たとえば、富山県で農林水産省を呼ぶというような取り組みをしてみてもどうか。富山県には山・川・海・豊かな平野もあるので、そういうところをアピールしながら広報して行ってほしい。

【市】

東京集中・企業誘致に関わることだが、本社機能を丸ごと移してもらうとか、東京の省庁に直接こちらに来ていただくとか、こういう場合は、ある程度の条件整理が必要になってくる。

その条件整理については、まず土地等の条件があるが、現在では通信環境の整備というところも大事かと思う。市内では、光回線がすべて整っているという状況ではないので、まずはそういった点から整備をしていく必要がある。光回線が市内全域を網羅することになれば、さらに企業が砺波市の方へ来て、自宅で仕事をするなど、本社機能あるいは支社機能を砺波市の方に移しやすい環境が整うのではないかと思うので、今後とも努力していきたいと思う。

イ 目標の数値化について

【委員】

第4次大綱のもとでは、目標をできるだけ数値化してはどうか。例えば、納期を決めるなど、それに向けてやって、出来なかったらその理由を分析すれば、次のステップを踏めると思うのでお願いしたい。

【会長】

PDC Aサイクルをしっかりとやるということで、従前から取り組んでいると思われるが、一層分かりやすい形で示していただくということが大事かと思う。

【市】

目標については、資料4の行政改革推進計画のとおり、なるべく数値化をして載せるようにしている。引き続き次の計画においても、工夫していきたい。